

早稲田通り(その2)

戦前の早稲田通りは、現在のような高層ビルはありませんでしたが、それぞれ特徴のある店舗が軒を連ね、にぎやかな通りでした。

通りをはさんで、淀橋区(現・新宿区)と中野区が入り組んでいることは今も変わりありません。そしてこの通りの坂上、現在のロイヤルホストの真向かい(上落合一丁目)にひととき大きな建物「公楽キネマ」という映画館がありました。創立時期や規模は別表の通りですが、この付近では最大の娯楽施設でした。創立のころは無声映画の全盛で、銀幕の左側に弁士の入るボックスが、また前方下側にはオーケストラの席があり、^{アラカン}阪妻(阪東妻三郎)、嵐寛(嵐寛寿郎)などのチャンバラの場面になると、オーケストラの音楽が一層高く流れました。

1階席は5人掛けくらの長椅子で、休憩時間になるとその間を「おせんにキヤラメル、ラムネはいかが」と売り歩くお婆さんの姿が、
 ・・・トイレの匂いもおまけにつきました。この映画館も昭和20年5月25日の山の手大空襲で焼失してしまいました。



▲右奥が公楽キネマ。付近の火の見櫓(やぐら)から撮影(昭和初期) 写真提供/上落合・八幡神社

館名	創立	定員	料金
公楽キネマ	大正14年 1月	450名	10銭★
新宿武蔵野	大正 9年 6月	1,155名	60銭、1円
新宿帝都座	昭和 6年 5月	1,300名	50銭、1円
早稲田全線座	昭和 8年12月	475名	20銭、30銭

★の料金は、当時を知る人の記憶から。

早稲田通り(その3)

早稲田通り(その1、その2)では、戦前の様子を書きましたが、現在の早稲田通りはどうか、それは都心と郊外を結ぶ重要な通路であることは変わりありません。朝夕、一定の時間帯の交通渋滞は日常茶飯事です。そこでどのくらいの交通量があるのかを中野警察署で調べてみると、表①のような数字でした。交通量の増加は、当然、車から出る排気ガスの問題を招きます。東中野住区協議会では昨年に続き今年6月、二回目の大気汚染(二酸化窒素)測定を四・五丁目の30か所で行いました。表②のとおり早稲田通り沿いは、住宅地と比べて極めて高い数値を示しています。ちなみに昭和の初め、早稲田通りがまだ砂利道だったころには、し尿の運搬車が頻りに運行していましたが、その臭気は申すまでもありません。当時と「ガス」の成分は全く変わりましたが、今後の課題として気になります。

ところで早稲田通りに限らず、道路に標示の多いこと。簡単に横切ることができません。その重要な役割を果たしている信号は、いつごろ取り付けられたのでしょうか。中野警察署では資料が無く、警視庁で聞くと、小滝橋には昭和34年に設置され、この辺で一番古いのは戸塚二丁目交差点で昭和25年、東京のど真ん中・日比谷交差点は昭和5年とのことでした。

表①平成10年、1月の交通量の比較

名称	早稲田通り	青梅街道
道幅	9m	16m
方向	中野→小滝橋	中野→新宿
台数	3,699	14,245
方向	小滝橋→中野	新宿→中野
台数	3,149	15,725
備考	普通4輪車以上を対象	

表②二酸化窒素濃度 [単位: PPM]

早稲田通り沿い	住宅地
0.073(東中野 4-27)	0.038(同 4-25)
0.076(東中野 5-25)	0.038(同 5-27)